★療考会のナゾに迫る★

ある歌の歌詞を持ち出して、メンバーの１人がこう言った。
「♪誰かの痛みが自分の痛み　誰かの夢が自分の夢♪
療考会事務局の意義はここだ」と。

来年度の役員を決める時期が近づいている園も多いのではないだろうか。
中でももっとも謎めいている？のが**「福岡市地域療育を考える会（療考会）」**だ。
いったいどんな活動をしているのか私も1年前は全く分からなかった。

かいつまんで説明すると、会に所属する市内7か所の療育施設の環境をより良くしましょうよ～、とか、待機児童が多いから新しく療育施設を作ってくださいよ～、というようなことを働きかけて実現させていく、というのが主な活動の内容。過去には東部療育センターの早期建設を目指して請願書を提出するなどして開所にこぎつけた経緯がある。

ちなみに2018年度はどんな活動をしてきたかと言うと、あゆみ学園の老朽化が著しいため、通園する全員の声をまとめて、南部療育センターとして新設してもらえないかという要望書を提出したり、行き場のない医療的ケア児（保育園や幼稚園はもちろん、知的にも肢体にも属さないため療育施設にも通えない）について福岡市議会の第2委員会の議員さんに現状を報告し、陳情等で福岡市へ要望を伝えたりといったことだ。

ちなみに会で行ってきたロビー活動から縁がつながり、単独通園施設の増設などの要望を全国発信の政党機関紙に載せてもらうことになるなど、福岡市内に留まらず広く思いを伝えている事務局メンバーもいる。
任期の1年ですぐに答えは出ない事案も多い。でも、「伝える」という行為が、次につながっていくのを、わずかながら感じつつある。

また、講演会など、保護者に学習の場を提供するのも会の大きな役割の1つだ。
11月には「障がいをもつ子の社会自立」と題して、柚の木福祉会の白谷氏による講演会を開催。また来年2月20日にも、障がいがありながら自立した生活を送ろうと努力を続ける男性をお迎えし、学習会を開く予定だ。少しでも前向きになれたり、子育ての活力となったりする時間を皆さんと共有できたら幸せだ。

いろいろ書き連ねてきたけれど、結局のところ「これをやらねばならない」という決まりはない。
その分悩むし、迷うけれど、やり方は自由。それを、会を運営する事務局や、各園の代表者たちと力を合わせて達成していく《充実感》がご褒美と言ったところだろうか。

そして、**「誰かの痛みが自分の痛み　誰かの夢が自分の夢」**とメンバーが今年の事務局をテーマ付けした通り、身近な誰かのことを想い、誰かのために動ける愛すべき母親たちと出会えたことは、人生において特別な出来事であったと追記しておこうと思う。

福岡市地域療育を考える会の
ホームページはこちらからどうぞ
↓　↓　↓

福岡市地域療育を考える会
会長　黒木（のびのび園）